

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・場面に合った言葉遣い、日常よく使われる敬語を理解し活用する力 ・情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し活用する力	・目的に応じて、文章中の必要な情報を見付け、それらを活用して自分の考えを言語化する力 ・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力

	児童の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	- ア 自分の思いを伝える際に、単語のみになってしまうことがある。 - ア 情報を基に自分で考える力が十分ではなく、分からないと、考える前に諦めてしまうことが多い。 - イ 読んだ文章に対して、自分の考えをもつことが難しい児童が多い。また、考えをもつことができても、話したり書いたりすることに課題がある。	- ア 授業中の発言に対して、「です」「ます」を付けて話すように指導を繰り返す。 - ア 挿絵やキーセンテンスに注目させたり、情報を関連付けるための具体的な視点を与えたりする。 - イ 話型を示したり、ペアで話してからグループで話したりすることで、友達の考えも参考にしながら自信をもって言語化することができるようになる。	- ア 通年 - ア 通年 - イ 通年	
第2学年	- ア 相手によって話し方を変えることができない。(対大人、対友達で話し方が同じ) - ア 与えられた情報を整理してまとめることに課題がある。 - イ 文章中から必要な情報を抜き出すことが苦手である。 - イ 自分の考えを書き示し、伝える力が弱い。	- ア 正しい話し方をその都度指導していく。 - ア 文中の注目すべき語句について説明し、情報の整理の仕方を練習させる。 - イ 文章中の大切なキーワードについて全体で共有する。 - イ 一言感想や作文の継続的な練習を行う。	- ア 通年 - ア 通年 - イ 通年 - イ 通年	
第3学年	- ア 漢字を正しく書くことに課題がある。 - ア 文章中の主語・述語の語句や文の関係を捉えることに課題がある。 - イ 大まかな要旨を捉え、中心となる語や文を見付けることに課題がある。	- ア 反復学習による漢字の定着を図る。また、普段の学習の中で丁寧に漢字を書くように指導する。 - ア 文章を読んだり書いたりするときに、主語・述語を意識させる。 - イ 中心となる文と具体的に説明している文との関係を捉えることができるように、「読むこと」で理解したことを基にして、自分で文章を書く学習を行う。	- ア 通年 - ア 通年 - イ 通年	

	イ 表現の際に写真や絵を用いることはできるが、効果的な使い方はまだ難しい。	イ 教材文で学んだことを生かして、写真や絵と関連付けて、分かりやすく説明する学習を行う。	イ 通年	
第4学年	ア 授業中に、丁寧語で話すに課題がある。 ア イ 目的や必要に応じて、話や本、文章の内容を要約することに課題がある。	ア 日常的に、丁寧語で発言できるように指導する。 ア イ 大切な言葉や文を見付けられる視点を与え、それらを使ってまとめることができるように指導する。	ア 通年 ア イ 通年	
第5学年	ア 場面に合った言葉遣いができていない。書き言葉と話し言葉の区別が付いていない。 イ 文章中から必要な情報を見付け、自分で考え、意見に活かすことができていない。	ア 言語の単元だけでなく、様々な単元で言葉の使い方について学習する場面を作る。 イ 易しい文章や教科書の例文を使って段階的に指導し、習慣的に自分の考えを書く活動を取り入れる。	ア 通年 イ 通年	
第6学年	ア 場面に合った言葉遣いに課題がある。話し合いの時、文章を書くときなどの場面に応じて使い分けができていない。 イ 目的に応じて要約しながら自分の考えをまとめる力に課題がある。	ア 日常的に、TPO に合った言葉遣いを意識させる。敬語の単元では、具体例を出しながら、丁寧に学習する。 イ 文章構成（初め、中、終わり）、主張や事例など学習してきたことを日々意識させ文章をまとめる活動を取り入れる。また、決められた字数の中で、より自分の考えを分かりやすくまとめる学習の機会を増やす。	ア 通年 イ 通年	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について		■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について	
1 年	学習支援ソフトのシンキングツールを使い、自分の考えを可視化する。 【重点：個別】	1 年	児童から出た初発の感想や疑問点を基に学習課題を設定し、児童が主体的に学ぶことができるようにする。
2 年	学習アプリを使い、指導者から児童に資料を送ったり、各個人の考えを書き記したり、それらを全体で共有したりする機会を多くもつ。【重点：協働】	2 年	各単元の始まりには、全体的な学習活動の流れを示し、見通しをもって学習活動に取り組めるようにする。単元の終わりには、学習してきた内容の振り返りをノートや作文用紙に書く。
3 年	友達が表現した文章をタブレット端末で読み合い、自分の考えと比べて深めたりしていく。【重点：協働】	3 年	学習の導入の際に、教材に対する興味・関心を高められるように、題材に対する話をしたり、学習方法について見通しをもたせたりする。
4 年	学習の手助けとなるヒントカードを配布する。【重点：個別】 タブレット端末を利用した個々の考えを共有する。【重点：協働】	4 年	単元の冒頭のページを活用した目標設定と単元ワークシートを活用した単元末の振り返りを実施する。
5 年	タブレットを活用しながら自分の考えをまとめたり、友達の考えと読み合ったりする。【重点：協働】	5 年	単元のゴールを示し、学習の見通しをもてるようにする。また、単元を振り返り、学びを言語化し、意識できるようにする。

6 年	学習支援アプリを使い、友達と意見を交流したり、必要に応じて自分の考えを修正したりして、学びを深めていく。【重点：協働】	6 年	第1時に単元の見通しをもたせたり、学習の中で児童からでた問いや感想を広げたりしながら、問題解決学習をスパイラルにして、学習を深めていく。
-----	---	-----	--